

【出席率】 会員63名中45名

【先々週の出席率】 88.14%

【ゲスト】

地区米山奨学委員会 寄附増進担当委員長  
田中雅史 様(新潟南RC)

【先週のメイクアップ】

10/25 新潟西RCへ 馬場信彦君 鈴木 武君  
10/25 三条東RCへ 西巻克郎君  
10/28 CLPセミナー(新潟)へ  
荒澤威彦君 吉井正孝君 鈴木園彦君



国際ロータリー会長

ウィルフリッドJ. ウィルキンソン [カナダ]

第2560地区ガバナー 渡辺敏彦 [新潟南]

第4分区AG 藤井三明 [分水]

会長 坂本洋司

幹事 船久保孝志

S A A 大溪秀夫

事務局

〒955-8666 三条市旭町2-5-10

三条信用金庫本店内

☎0256-35-3477 Fax 0256-32-7095

E-mail info@sanjo-minami.jp

URL <http://www.sanjo-minami.jp>



## 会長挨拶

坂本 洋司 会長



ご挨拶を申し上げます。

今日は、新潟の名物という域を超えて、国民的なお菓子と言っても過言でない「柿の種」についてお話をしてみます。

\*柿の種の由来ですが、

最初に作ったのは、長岡市の浪花屋製菓だそうです。創業して間もない頃は、餅を筒状の金型で小判型にくりぬいて「あられ」を作っていたそうで、それがある日その金型の口を誤って曲げてしまい、代わりがないので曲がったまま使用したところイビツに曲がったあられが出来たそうです。今と違い、当時ですのでそのまま売り込みに行ったところ、取引先から笑われて、「これは小判というよりは柿の種に似ている」と言われたことから命名し、以来浪花屋製菓として80年以上にわたって『柿の種』を作り続けているそうです。

因みに、浪花屋製菓の創業者は地元長岡市の豪雪対策に欠かせない消雪パイプを発明したとも言われています。

\*柿の種の生産量はと申しますと

一説には200億円と言われ、米菓全体の市場規模が約2300億円と言われているそうですので、その約一割程度が「柿の種」ということになります。また、その内の約9割が新潟県内で生産されているそうです。

『柿の種』を語る上で欠かせないのが、ピーナッツです。何故ピーナッツなのかについてメーカーに尋ねますと

\*相性の良さで・・・辛い柿の種と甘いピーナッツとの味の相性だそうです。

\*栄養のバランス・・・柿の種の原料は、米 すなわち炭水化物です。それにピーナッツが加わることで、蛋白質と脂肪が増し、三大栄養素がそろい、栄養のバランスが理にかなっているそうです。

\* 価額のお手頃感・・・カシューナッツやアーモンドなどと比較してもピーナッツが一番手に入りやすく、手頃な価額とのことです。

ほんじつは「米山月間」でございます。地区米山奨学委員会・寄附増進担当委員長の田中雅史様より卓話をいただきます。お忙しい中有難うございます。よろしくお願ひ申し上げます。

## 幹事報告

船久保 孝志 幹事

- 見附ロータリークラブより 「創立25周年記念式典」のご案内  
日時 平成19年12月 2日(日) 11:30~14:30  
会場 ホテル つるや  
基調講演 久住見附市長
- 白根ロータリークラブより 講演会「いじめ・不登校・非行はこうすれば防げる」のご案内  
日時 平成19年11月10日(土) 15:00~17:00  
会場 白根学習館 ラスペックホール  
講師 新潟教育研究所 アドバイザー 山田栄一氏
- 三条市青少年育成市民センターより 「第3回私のメッセージ三条市小学生大会」のご案内  
日時 平成19年11月10日(土) 9:20~12:00  
会場 三条市中央公民館 大ホール



～ 10月29日 19,000円 今年度累計 339,000円 ～

- 坂本君 ○先週は職場例会で五十嵐川河川工事の現場を見学させていただきました。安達会員有難うございました。
- 船久保君 ○本日は、米山月間です。地区米山奨学委員会、田中雅史様宜しくお願ひ致します。
- 馬場(信)君 本日は、米山月間です。地区米山奨学増進委員長 田中雅史様、宜しくお願ひ致します。本日は、地区の米山奨学委員会寄附増進担当委員長 田中雅史様をお迎えしました。次年度は米山奨学委員長を田中さんからお務めいただきます。特に次期年度宜しくお願ひします。
- 星野君 新潟南クラブの田中様、お忙しい中お出でいただき誠に有難うございます。
- 田代君 地区米山奨学委員、田中様 本日の卓話宜しくお願ひ致します。
- 相田君 昨日は、村松で謡曲会に参加して一日楽しみました。村松「鶴諷会(かくふうかい)」と三条「颯々会(さつさつかい)」との交流は長く、30年以上になります。
- 嘉瀬君 先週の金曜日に、米沢の牛肉を食べに兄夫婦と4人で行って来ました。裏磐梯の紅葉は始まっていましたが、肉は内容の割には高かった気がしました。
- 吉田(秀)君 先週は例会を欠席して、第四銀行の旅行で北海道へ行って来ました。道南は紅葉真つ盛りでした。
- 西巻君 BOX担当の大久保さんと同席ですので協力させていただきます。
- 安達君、飯山君、木原君、田中(久)君、田中(梯)君、銅冶君、馬場(一)君、渡邊(久)君、渡邊(光)君 BOXに協力致します。
- 大久保君 昨日は、湯沢温泉で三条第一中学校 昭和28年度卒業生の同期会兼古希を祝う会を開催しました。80名程の参加があり楽しい宴でした。ボックスにご協力有難うございました。

## 米山月間

「米山奨学事業」

2560地区 米山奨学委員会  
寄附増進担当委員長 田中 雅史 様

### 1.(財)ロータリー米山記念奨学会とは

日本に在留している外国人留学生に対し、日本全国のロータリアンの寄付金を財源として、奨学金を支給して支援している民間の奨学団体です。

## 日本の全ロータリー地区が共同で作った奨学財団です

- 「米山記念」と米山梅吉氏の名前を冠していますが、米山家の資産をもとにつくられた財団ではありません。
- 静岡県三島市の（財）米山梅吉記念館とは別法人であり、それぞれ独自の理事会によって運営されています。
- 米山の財源は、全国のロータリアンからの寄付金であり、理事会は全34地区から選出された理事で構成されています。



## 奨学金の支給対象は、日本の大学・大学院で学ぶ外国人留 学です

- ロータリー財団の実施する国際親善奨学金は海外の大学・大学院への留学を希望する日本人を対象としています。日本のロータリーから見ると、国際親善奨学金は日本人留学生の「送り出し」、米山奨学金は外国留学生の「受け入れ」と相互補完の関係にあります。

## 2. 米山奨学会のあゆみ

### 奨学金の支給対象は、日本の大学・大学院で学ぶ外国人留 学です

- 1952年、日本で最初に設立されたクラブ、東京ロータリークラブが、日本ロータリーの創始者とも言える米山梅吉氏の功績を記念して始めた国際奨学事業が、全ロータリー地区の合同事業に発展したものです。
- 米山奨学事業の構想が発表された1952年には、日本政府による国費外国人留学生奨学金や、日米間協定によるフルブライト奨学金が始まりました。終戦から7年、戦後の復興の道を歩み始めた当時の日本にとって、二度と戦争の悲劇を繰り返さないために、世界の国々との人物交流を深める必要性を多くの人々が感じていた時代だったと言えます。このような時代背景のもと、米山奨学事業は「留学生が平和を求める日本人との出会い、信頼関係を築く」ことを目的に始められ、「日本のロータリーに最もふさわしい国際奉仕事業」と高く評価されて、全国に拡大していきました。

### 今年で財団設立40周年を迎えました

- 1967年7月1日、文部省（現在の文部科学省）の許可を得て、財団法人ロータリー米山記念奨学会が設立されました。国内全クラブの合同事業として「ロータリー米山奨学委員会」が結成されてから財団設立までに、実に10年の歳月を要しました。

## 3. 米山奨学事業の特長

### 日本最大の民間奨学事業です

- 年間の奨学生採用数は800人（通常の奨学財団では、数人～30人程度）、国内では最大の民間奨学事業です。

### 事業の真髄：世話クラブ・カウンセラー制度

- 奨学生一人ひとりに、地域のロータリークラブから世話クラブが選ばれ、さらにその会員の中からカウンセラーが付いて、奨学生との交流を深め、彼らの日本での生活が心豊かなものになるよう配慮しています。
- 米山奨学事業は、その成り立ちから「交流」を目的としたプログラムと言えます。それを実現するための制度が世話クラブ・カウンセラー制度です。奨学生は、ロータリアンとの交流を通じて、奉仕の精神に触れ、自らの精神を磨いて、人生観・職業観を深めます。また、ロータリアンにとっても、金銭的な支援だけでは得られない感動と、事業への深い理解が生まれて、さらなる支援への意欲を盛り立てます。

### 国際ロータリーに認める多地区合同奉仕活動

- 2004年11月の国際ロータリー理事会にて、米山奨学事業は日本の全ての地区が関わる多地区合同奉仕活動であることが認められました。

## 4. 寄付金と財政の状況

### いただいた寄付は、すべて奨学事業のために使われます

#### 【2006年度決算収支の全体像】

（収入の部）

- 寄付収入は、前年度決算よりも減少しているものの、予算14億5千万円を達成しました。
- 利子収入は1億1千万円となり、管理費の合計7千万円を賄えます。言い換えれば、いただいた寄付は全て奨学事業に使っています。

#### 〈支出の部〉

- 奨学事業は14億3千万円となり、寄付収入とほぼ同額です
- 事業費のうち、奨学金が12億5千万円で最も多く、奨学金以外の事業費1億8千万円の内訳は、奨学生への記念品、学友会への補助金、地区と世話クラブへの補助金などで、これらの合計が1億円です。事業の広報や寄付増進に関わる費用が4千万円。事業費には、奨学生管理に関わる人件費や事務費も含まれており、これらが4千万円となります。
- 寄付収入の予算達成と支出予算の未消化により、繰越収支差額が増えましたので、2006年6月の理事会・評議員会の承認を経て、1億5千万円を奨学資金特別積立財産に積み立てました。

### 財政の健全化を図りながら、寄付金収入に見合った支援規模で運営しています

- 96年をピークに寄付金は一昨年（2005年）まで減少し続けました。99年以降、寄付金の回復を願い、特別積立財産を取り崩して1,000人規模の採用を維持しましたが、2005年4月採用より、採用人数を1,000人から800人に、奨学金額も減額しました。
- 2005年度は、9年ぶりに前年度を上回る寄付をいただいたものの、2006年度は残念ながら、前年度比マイナス0.8%となりました。しかし、一人当たりの平均寄付額は前年度を上回り、予算額14億5千万円を達成することができました。

## 5. 米山奨学会への寄付について

### 米山への寄付には、「普通寄付金」と「特別寄付金」の2種類があります

- 普通寄付金は、半年に1度、各クラブで決まった一人分の金額を会員数分ご送金いただく寄付です。
- 特別寄付金は、任意でいただく寄付で、個人寄付・法人寄付・クラブ寄付の3種類があり、累計額に応じた表彰制度があります。ご寄付は、おいくらからでもご送金いただけます。特別寄付の約9割が個人寄付、クラブは7%、法人寄付は4%です。

### 特別寄付には表彰制度があります(2007年7月1日より一部改定)

- 累計10万円から第1回米山功労者となります(以降、10万円ごとに表彰)
- 累計20万円から、第2回米山功労者マルチプルとなります
- 累計100万円から、第3回米山功労者メジャードナー(感謝状以外の表彰品は100万円ごと)
- 2007年7月より表彰制度が一部改定され、感謝状以外の表彰品が100万円ごと(従来は、30万円ごと)になりました。これにより年間約900万円経費節減が見込まれます。また、累計3万円での「準米山功労者」という呼び名が復活しました(表彰なし)

### 個人・法人の特別寄付には税の優遇措置が受けられます(年間5千円より)

- (財)ロータリー米山記念奨学会は「特定公益増進法人」として認定されているため、特別寄付金は、所得税、法人税、相続税の寄付金控除対象となります。
- 2006年度から適用下限額が1万円から5千円に引き下げられ、2007年度からは適用上限額が総所得の30%から40%に拡充されました。
- 確定申告用の領収書は、毎年1月末までにクラブ宛に送られます。

### 寄付が増えると、地区で採用できる奨学生の数が増えます

- 各地区あたり奨学生を何人採用できるかは、概ね地区の寄付額の全国比によって決定されます。この場合の寄付額とは「個人平均寄付額」(50%)、「地区寄付総額」(40%)です。寄付額以外の要素として、「有資格者数」=各地区の米山奨学金の対象となる留学生数があります。

2006～07年度  
一人当たり平均寄付額  
上位クラブ

今年度 順位	前年度 順位	地区	クラブ名	個人平均 寄付額(円)	会員数(人)
1	920	2600	諏訪	80,678	56
2	2,137	2670	香長	74,428	14
3	948	2610	高岡西	73,300	60
4	366	2710	呉東	60,210	38
5	922	2610	河北南	59,384	26

## 主な米山奨学金プログラムの募集・選考には、指定校・学校推薦制度が導入されています

ロータリー米山奨学金一覧	月額	期間	募集システム	人数
1. 学部課程 (YU)	10万円	最長2年	指定校・学校推薦制度	794人枠
2. 修士課程 (YM)	14万円			
3. 博士課程 (YD)	14万円			
4. 地区奨励	7万円	1年	世話クラブ推薦	
5. クラブ支援 (CY)	14万円	6ヶ月/1年		
6. 現地採用	7万円 (渡航費・住居費、授業料別)	3~4年 (日本語研修含む)	現地公募	4人
7. 海外学友会推薦	14万円 (渡航・住居費別)	1年	海外学友会推薦	2人

- 指定校・学校推薦制度は、地区が決定する指定校から優秀な学生を推薦してもらい、推薦された候補者を地区が面接、選考するものです。地区は推薦の基準(国籍割合や学年、専攻など)を指定校に提示できます。
- 地区奨励奨学金と現地採用奨学金は、2006年度制度改編で始まった新しいプログラムです。
- 地区奨励奨学金は、大学・大学院以外の教育機関(短大・高専など)に在籍する留学生を対象としています。奨学金額が大学院生の半額である代わりに、1人の枠で2人採用できます。近隣に大学のない地域にも世話クラブを広げられるという利点もあります。
- 現地採用奨学金は、ベトナムを対象に試行です。経済的な理由から自力で日本に留学できない発展途上国の優秀な人材を発掘し、日本に招聘するもので、米山奨学事業の『原点の回帰』のプログラムと言えます。

## 7. 米山学友の活躍

### 1万3千人を超える学友がアジアを中心に活躍しています

#### 【特に顕著な活躍を遂げた6人の米山学友】

- 元駐日韓国大使：崔 相龍(チェ サンヨン)さん 《韓国 1969~72 東京日本橋RC・東京城西RC》
- 世界四大博物館の一つ、故宫博物院(台北)院長：林 曼麗(リン マンレイ)さん 《台湾 1981~83, 1996 東京保谷RC》
- 台湾を代表する実業家、統一超商社長：徐 重仁(シュ チョンレン)さん 《台湾 1976~77 平塚RC》
- スリランカの元警察庁長官、現在は安全保障関連の大統領アドバイザーに就任：  
チャンドラシリ・フェルナンド 《スリランカ 1982~84 仙台西RC》
- ガバナーになった学友(韓国)：林 隆義(リン ユンウイ)さん 《韓国 1977~78 京都西南RC》
- ガバナーになった学友(台湾)：許 國文(シュ コウウエン)さん 《台湾 1975~77 徳島RC》

### 台湾には米山学友が中心となってつくったクラブが2つあります

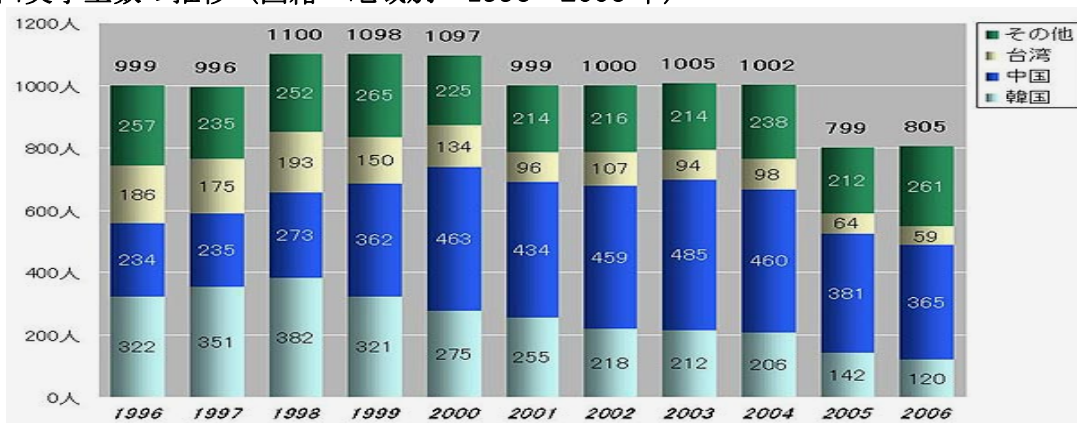
- 台北東海RCは、1995年に米山学友が力を合わせて上げた初のクラブです。日本語を公用語として、日本との親善交流に尽力しています。2007年5月には米山学友を中心に新しく台中文心RCが誕生しました。

### 米山学友会は、国内に26、海外に2(韓国・台湾)設立されています

- 学友会とは、米山奨学生の同窓会組織です。奨学期間終了後も地区と連携しながら、ロータリアンと学友が継続して交流を深めるイベントやさまざまな地域奉仕活動を企画し、活動しています。
- 最も活発に活動しているのは、台湾の米山学友会です。台湾の社団法人として認可されており、台湾国内に4ヶ所の支部があります。会員数は約280人です。

## 米山奨学生・学友の採用実績

### ■米山奨学生数の推移(国籍・地域別 1996~2006年)



■2006 学年度の米山奨学生

【奨学金プログラム別人数】

奨学金プログラム	人数 (人)
米山奨学金	787
学部課程奨学金	126
修士課程奨学金	376
博士課程奨学金	277
地区奨励奨学金	8
クラブ支援奨学金	15
海外学友会支援奨学金	2
休学による延長者	1
合計	805

【国籍・地域別人数】

中国	365 人
韓国	120
台湾	59
ベトナム	39
マレーシア	35
バングラデシュ	20
その他	167
合計	805

【今年度、初めて採用された国の奨学生】



アゼルバイジャン  
(Republic of Azerbaijan)  
第2560 地区 (新潟) で採用



ホンジュラス  
(Republic of Honduras)  
第2710 地区 (広島・山口)  
で採用

■国籍・地域別 学友数累計ランキング (2006 学年度含む)

1 韓国	3,464人	8 タイ	210人	15 ブラジル	77人
2 中国	3,418人	9 スリランカ	192人	16 モンゴル	68人
3 台湾	3,095人	10 香港	114人	17 アメリカ合衆国	65人
4 マレーシア	767人	11 インド	101人	18 ロシア連邦	37人
5 ベトナム	346人	12 ネパール	98人	19 イラン	36人
6 インドネシア	280人	13 フィリピン	84人	20 カンボジア	28人
7 バングラデシュ	225人	14 ミャンマー	84人		

学友なんでも 資料館

■出身大学 BEST 10

1 東京大学	842人	6 名古屋大学	280人
2 筑波大学	531人	7 京都大学	279人
3 大阪大学	412人	8 神戸大学	270人
4 東北大学	337人	9 千葉大学	266人
5 九州大学	286人	10 信州大学	263人

■学友の現在の職業は

(米山奨学会独自の分類)

1 教育	2880人
2 企業	1984人
3 研究所	367人
4 病院	258人
5 官吏	112人

■博士号取得者数は (申請ベース)

2988 人 / 11,908 人中 (国外取得者や渡航前取得者を含む)

【博士号取得者の出身国ランキング】

1 韓国	1190人
2 中国	531人
3 台湾	412人
4 バングラデシュ	337人
5 インド/ベトナム	286人

韓国・中国は大学院生のみ対象のため多くなっています

【博士号の種類】 (米山奨学会独自の分類)

1 工学	1007人
2 医学	468人
3 農学	446人
4 理学	288人
5 人文学	184人

■ロータリアンになった学友

80 人 (米山奨学把握分)

1 台湾	51人
2 韓国	16人
3 ネパール	3人
4 インド	2人
5 バングラデシュ	2人
6 マレーシア	2人
7 スリランカ	1人
8 ベトナム	1人
9 香港	1人
10 中国	1人